

## 第83回 地区内中小企業景気動向調査結果

(平成21年7~9月期実績・平成21年10~12月期見通し)

1. 調査時点 平成21年9月1日~9月7日

2. 調査対象企業数 180社中回答 180社 回答率 100.0%

区分	調査対象企業の範囲	調査対象企業数	有効回答数	有効回答率(%)
製造業	従業員 300人以下	41	41	100.0
建設業	"	46	46	100.0
卸売業	従業員 100人以下	8	8	100.0
小売業	従業員 50人以下	54	54	100.0
サービス業	"	31	31	100.0
合計		180	180	100.0

### 3. 調査方法

当金庫調査員の面接聞き取りによる感触調査です。

調査対象企業は、当金庫の営業区域(新冠町~広尾町)内に所在する企業とし、その抽出は、各業種・規模等の基本属性の構成が、調査対象母集団の属性に見合う一定基準に基づいて有意抽出で行っています。

### 4. 分析方法

各質問項目で「増加(上昇)」したと回答した企業の全体に占める構成比と、「減少(下降)」したと回答した企業の全体に占める構成比との差(判断指数・DI値)を中心に分析を行っています。

なお、同時に信金中央金庫総合研究所が行う、全国調査結果と地区内との比較分析を行っています。

### 5. お問い合わせ先

日高信用金庫 経営統轄本部調査課( .0146 - 22 - 4116、内線213)

〒057-0013 浦河郡浦河町大通2丁目31番地2

## 全業種総合 180 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

### 概 況

今期(平成21年7~9月期)の業況判断DI値は 32.7 と、前期(平成21年4~6月期 47.0)比マイナス値が14.3ポイント縮小し2期連続の改善となった。業種別にみると、5業種全てで改善し、製造、建設、卸売は2期連続の改善となり、建設は5業種中最も大きな改善幅となった。一方、サービスは極僅かな改善で、前々期からほぼ横ばいのマイナス値は5業種中最も低い水準となった。

売上額、収益判断DI値は、前期比売上額が 2.8(前期 17.7)と、マイナス値が縮小し、収益が1.3(前期 14.9)と、マイナスからプラス値に転じ、それぞれ14.9、16.2ポイント上昇した。業種別にみると、製造、建設、卸売が売上額、収益ともに上昇、小売が売上額で低下、収益で上昇し、サービスは売上額、収益ともに低下した。

来期(平成21年10~12月期)の予想業況判断DI値は 32.8 と、今期( 32.7)実績比0.1ポイントの極僅かな低下でほぼ横ばいの見通しとなっている。業種別にみると、製造、卸売が改善し、小売がほぼ横ばい、建設、サービスが悪化を見通している。

### 【業種別天気図】

業種	時期	地 区 内				北 海 道	全 国	
		21年 1~3月	21年 4~6月	21年 7~9月	21年 10~12月見通し	当 期	当 期	
総 合								
製 造 業								
建 設 業								
卸 売 業								
小 売 業								
サ ー ビ ス 業								
好調								低調
この天気図は、景気指標を総合判断して作成したものです。								

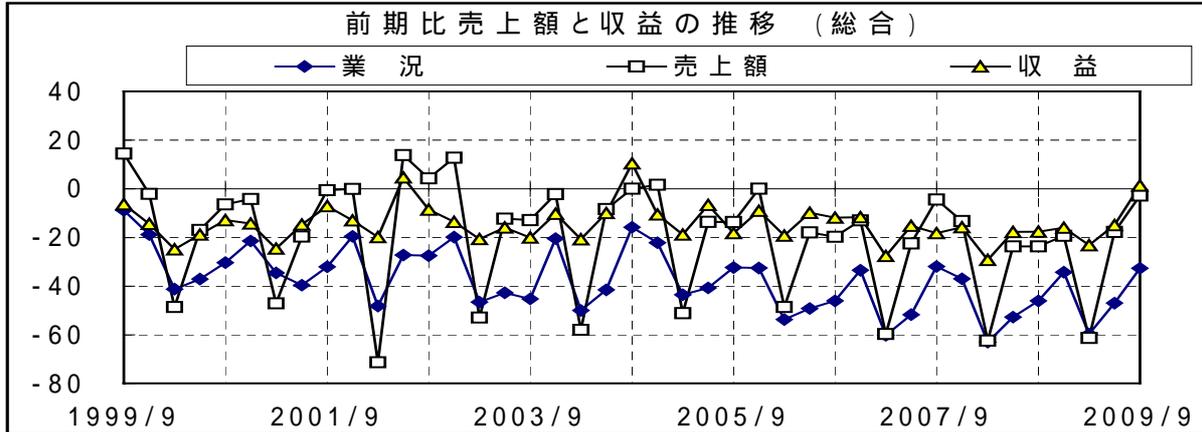
## 景 況

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
業 況	-59.7	-47.0	-32.7	-32.8
売上額	-61.3	-17.7	-2.8	-17.2
収 益	-23.2	-14.9	1.3	-17.2

全業種総合の今期の業況判断DI値は 32.7 と、前期比マイナス値が14.3ポイント縮小し2期連続の改善となった。地区別にみると、浦河、三石、様似、えりも、広尾地区が改善し、静内地区で悪化している。

売上額、収益判断DI値は、前期比売上額が 2.8 と、マイナス値が縮小し、収益が 1.3 と、マイナスからプラス

値に転じ、それぞれ14.9、16.2ポイント上昇した。

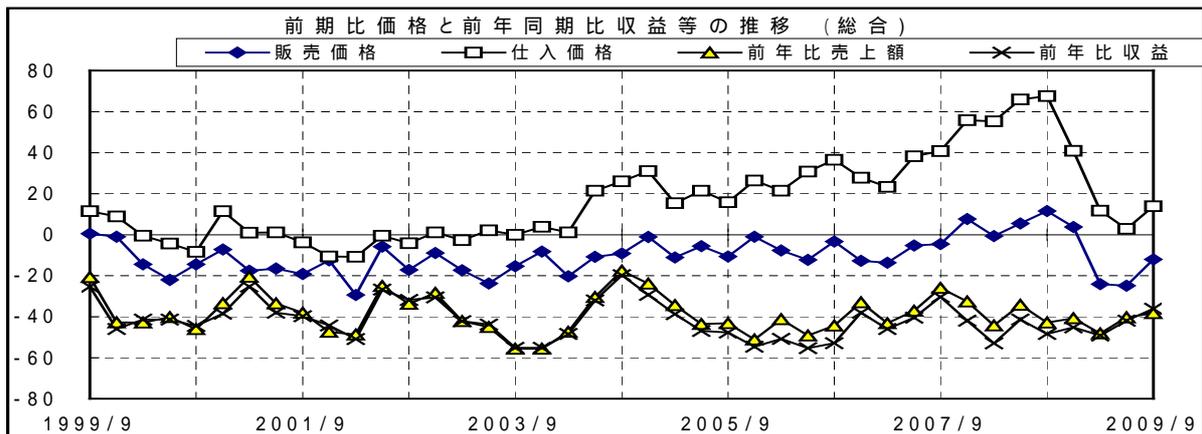


## 価格面、前年同期に比へた動き

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
販売価格	-24.1	-24.9	-12.0	-0.6
仕入価格	11.7	2.8	13.9	13.3

販売価格判断DI値( 12.0)は、前期比マイナス値が縮小し12.9ポイント上昇、価格低下基調を弱めている。一方、仕入価格判断DI値(13.9)は、前期比プラス値が拡大し11.1ポイント上昇、価格上昇基調を強めている。業種別にみると、販売価格が製造、建設、卸売、小売で上昇し、サービスで低下、仕入価格が5業種全てで上昇

している。



## 雇用面の動き

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
残業時間	-21.0	-17.1	-7.2	0.0
人手状況	11.7	13.2	2.7	-5.6

残業時間判断DI値は 7.2 と、残業時間が減少したとする企業割合が減り、前期比9.9ポイント上昇した。

人手過不足判断DI値は2.7 と、前期比プラス値が縮小し10.5ポイント低下、人手過剰感を弱めている。

## 設備投資の動き

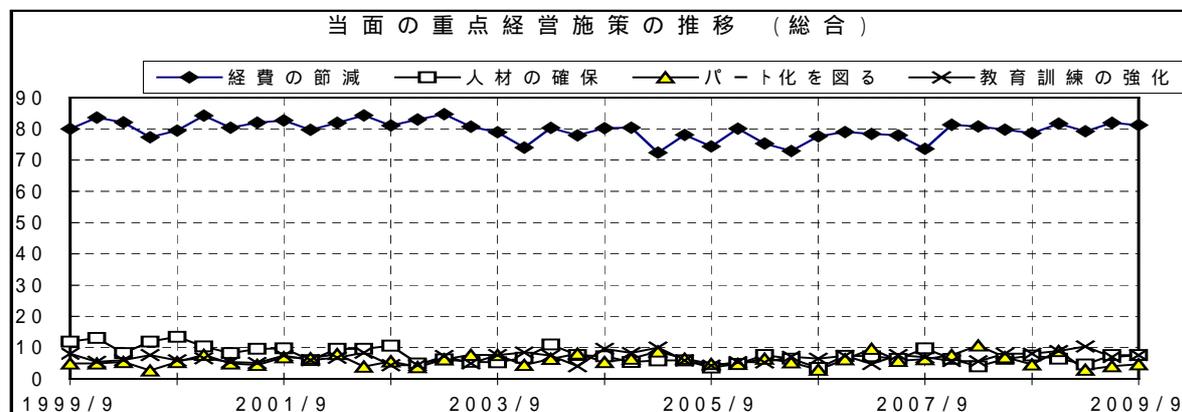
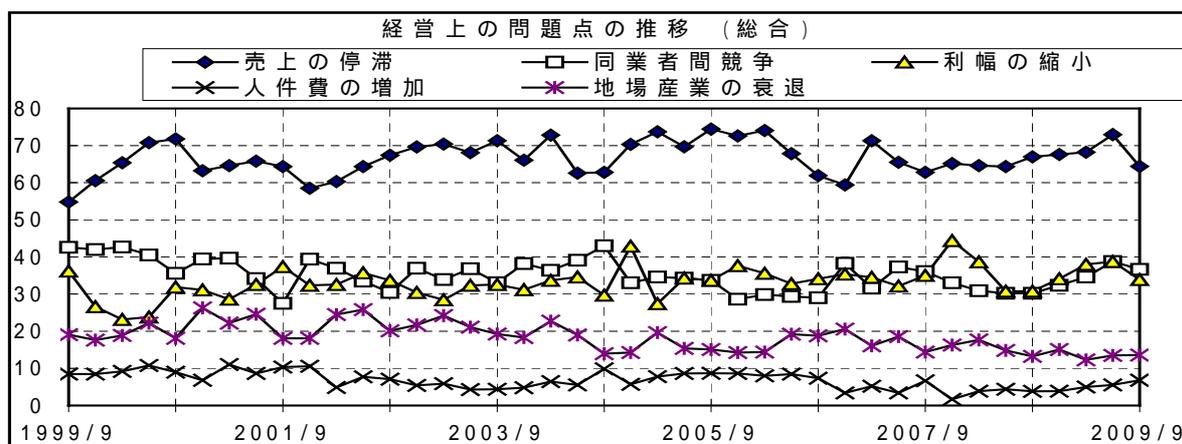
設備投資の充足感を示すDI値は 9.5 と、前期( 1.0)からマイナス値が拡大し8.5 ポイント低下、不足感が強まる一方、適正と回答した企業は81.7%と、前期(79.0%)から2.7ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は20.0%と、前期(14.9%)比5.1ポイント上昇し、件数で前期の27社に対し36社の実施となった。また、来期予定では当期比11社減の25社となっている。

## 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」が64.4%で最も多く、次いで「同業者間の競争」36.7%、「利幅の縮小」33.9%、「天候の不順」20.3%の順に続き、前期との比較では「天候の不順」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、建設業が「同業者間の競争」、建設業以外業種が「売上の停滞」をトップに挙げ、「売上の停滞」は浦河、えりも地区で70%を超える割合となっている。

重点経営施策では、「経費の節減」が81.2%で突出し全業種でトップに挙げている。地区別にみると、「経費の節減」は広尾以外の地区で80%を超える割合となっている。



## 来期の見通し

来期(平成21年10~12月期)の予想業況判断DI値は 32.8 と、今期( 32.7)実績比0.1ポイントの極僅かな低下でほぼ横ばいの見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断DI値は、今期実績比売上額が 17.2(今期 2.8)と、マイナス値が拡大し、収益が 17.2(今期1.3)と、プラスからマイナス値に転じ、それぞれ14.4、18.5ポイントの低下見通しとなっている。

予想販売、予想仕入価格判断DI値は、今期実績比販売価格が 0.6(今期 12.0)と、マイナス値が縮小し11.4ポイント上昇、価格低下基調が弱まる一方、仕入価格は13.3(今期13.9)と、プラス値が縮小し0.6ポイント低下、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。

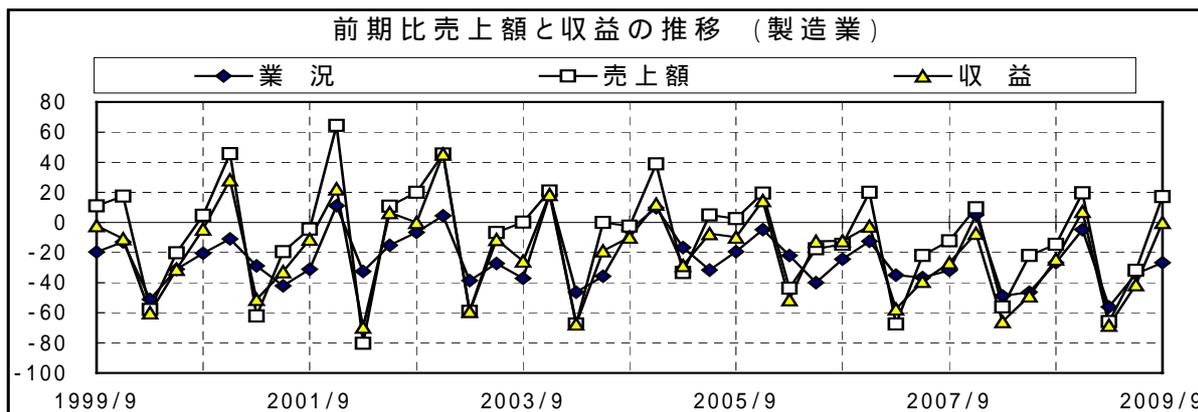
## 製造業 41 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

### 景 況

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
業 況	-56.1	-34.1	-26.8	-14.6
売上額	-65.9	-31.8	17.1	0.0
収 益	-68.3	-41.5	0.0	-4.9

今期の業況判断DI値は 26.8 と、前期比マイナス値が7.3ポイント縮小し2期連続の改善となった。地区別にみると、浦河、静内、三石、えりも地区が改善し、広尾地区が横ばい、様似地区で悪化している。

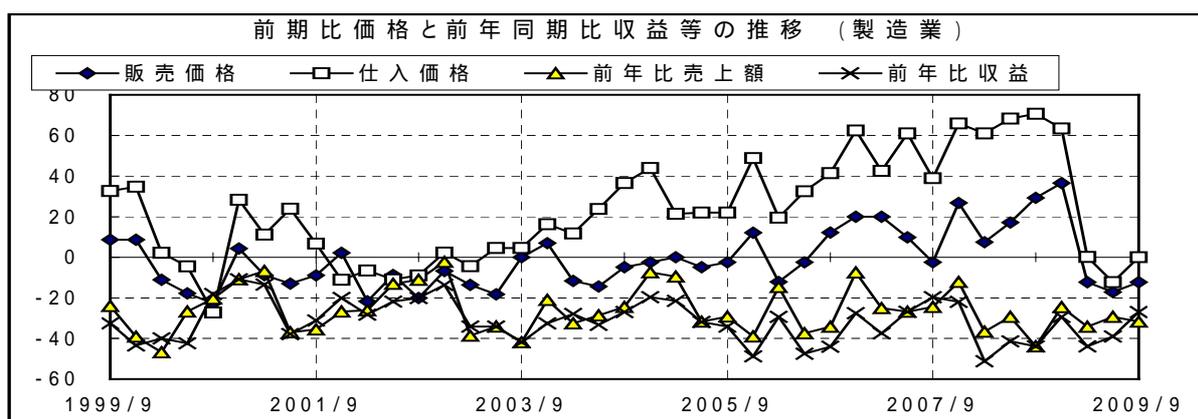
売上額、収益判断DI値は、前期比売上額が17.1と、マイナスからプラス値に転じ、収益が0.0と、マイナスからゼロ値に転じ、それぞれ48.9、41.5ポイント上昇した。



### 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
販売価格	-12.2	-17.1	-12.2	2.5
仕入価格	0.1	-12.2	0.0	12.3

販売価格判断DI値( 12.2)は、前期比マイナス値が縮小し 4.9ポイント上昇、仕入価格判断DI値(0.0)は、前期比マイナスからゼロ値に転じ12.2ポイント上昇し、それぞれ価格低下基調を弱め仕入価格は価格基調に高低のないゼロ水準となった。業種別にみると、食品が販売、仕入価格ともに上昇、木材が販売価格で低下、仕入価格で上昇している。



### 雇用面の動き

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
残業時間	-26.9	-19.6	-4.8	9.8
人手状況	9.8	22.0	7.4	-9.8

残業時間判断DI値は 4.8と、残業時間が減少したとする企業割合が減り、前期比14.8ポイント上昇した。人手過不足判断DI値は7.4と、前期比プラス値が縮小し14.6ポイント低下、人手過剰感を弱めている。

## 設備投資の動き

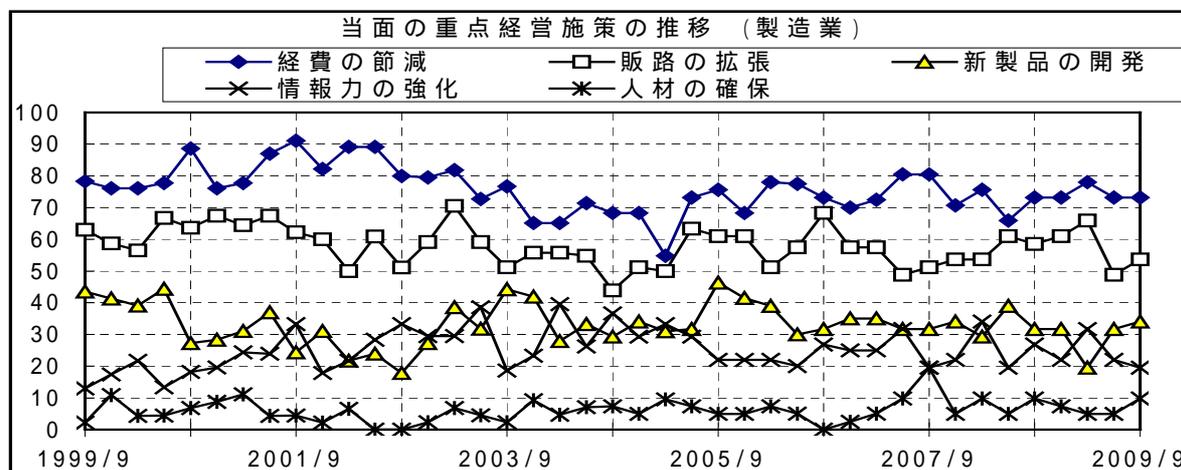
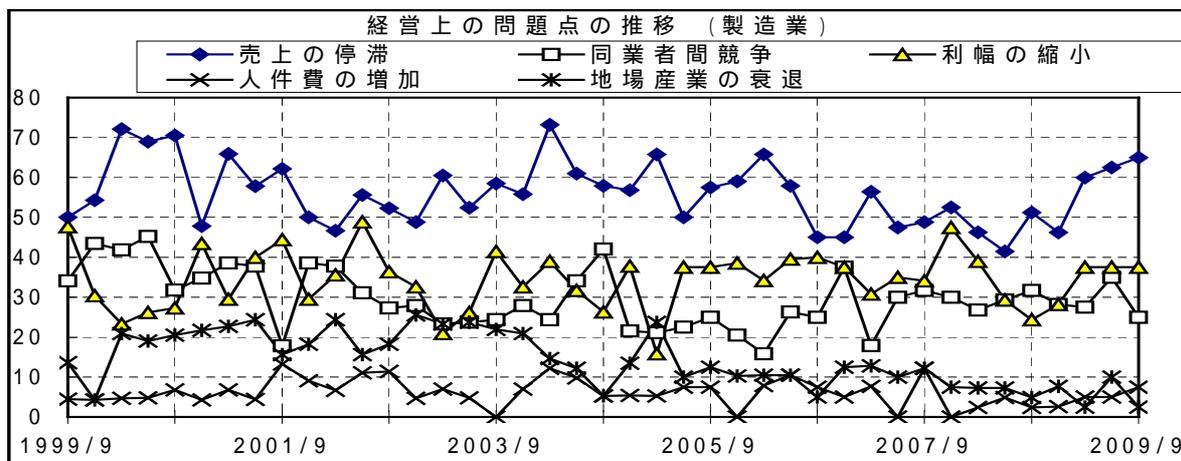
設備投資の充足感を示すD I値は 7.3 と、前期(2.5)のプラスからマイナス値に転じ9.8ポイント低下、不足感が強まり適正と回答した企業も82.9%と、前期(87.9%)から5.0ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は22.0%と、前期(17.1%)比4.9ポイント上昇し、件数で前期の7社に対し9社の実施となった。また、来期予定では当期比3社増の12社となっている。

## 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ65.0%、次いで「利幅の縮小」37.5%、「天候の不順」32.5%、「同業者間との競争」、「原材料高」25.0%の順に続き、前期との比較では「天候の不順」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、食品、木材ともに「売上の停滞」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ73.2%、次いで「販路を広げる」53.7%、「新製品の開発」34.1%、「情報力の強化」19.5%の順となっている。業種別にみると、食品、木材ともに「経費の節減」をトップに挙げている。



## 来期の見通し

来期(平成21年10~12月期)の予想業況判断D I値は 14.6 と、今期(26.8)実績比12.2ポイントの改善見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I値は、今期実績比売上額が0.0(今期17.1)と、プラスからゼロ値に転じ、収益が4.9(今期0.0)と、ゼロからマイナス値に転じ、それぞれ17.1、4.9ポイントの低下見通しとなっている。

予想販売、予想仕入価格判断D I値は、今期実績比販売価格が2.5(今期12.2)と、マイナスからプラス値に転じ、仕入価格が12.3(今期0.0)と、ゼロからプラス値に転じ、それぞれ14.7、12.3ポイント上昇、価格上昇基調が強まる見通しとなっている。